

## 寄稿

■平成十六年六月十日(木) 第三十四回近畿教研会議

### 通夜説教の手引きと組立参考例

―あくまで報恩(主師親)がテーマ―

(日蓮宗現代宗教研究所嘱託)

有 本 智 心

#### 【挨拶】

本日〇〇家、故〇〇殿のお通夜にご参詣誠に御苦労さままで御座います。私は当家菩提寺の日蓮宗△△寺住職であります。有本智心と申します。約十分程の間お話を申し上げますので、お体を楽にしてお聞き下さい。

こうしてお通夜にお坊さんがお話するのを、お通夜の説教と申します。今までこのようなお話をお聞きになったことが御座いますでしょうか。最近では、お坊さんがお通夜にお話をなさることが少なくなったようですが、昔は通夜説教をすることが当たり前でありました。今でも、北海道や北陸あたりでは盛んなようでもあります。お通夜の法要が始まりますと、ご縁の無い通りがかりの人たちも法要に参列し、その後のお説教を聞くのが当たり前のようにあります。そうしてそのお話をきいて、「〇〇さんのお通夜のお坊さんのお話はとっても良かった。あのお坊さんのお説教は大変有り難かった」と評判になったようであります。従って、各宗の僧侶はお話をする事が当然でありました。又、評判になるように、腕ならぬ口を磨いたのであります。

どうぞ暫くの間、故〇〇殿の菩提を弔う意味でお聞き下さい。

※このような出だしで始まります。

### 【端 緒】

- 枕飯Ⅱお箸の立つくらい堅いご飯。お粥や代用食等の時代、滅多に食べられないご馳走の意。
- 一晚中起きて居るⅡ故人を思い出して、最後の孝行、悲しみを共にする。
- 通夜の僧侶の読経Ⅱ昔は午後八時頃から読経を始め、十二時ごろ僧侶が交代し、翌日の午前八時頃まで読経。
- 故精霊の前で休むⅡ特に結縁の強い人たちは、共に起きて読経を聞いたり拝読をする。
- 身延山を総本山とする日蓮宗のお檀家Ⅱ故精霊の常々のご信仰と精進、菩提寺への貢献。

### 【綱 領】（参考一例）次の法華経や御妙判から結びつけて下さい。

- 佛である釈尊とはどんな方か。Ⅱ人間に生まれて人間の言葉で法を説いた唯一の佛である。
- 釈尊は私たち人間に何を伝えたかったのか。又、何を残したのか。それは、人間の悩み、苦しみや喜び、楽しみ希望を知って法を説いたのが法（真理）であり、文字で残されたのがお経である。他の佛が説かれたのではない。
- 皆さんは現在まで生きてきて、どんな苦しみや喜びがあったか。お金、愛、名誉、健康等、親がこの世に生んでくれたのか、自分勝手に生まれてきたのか、良く思い出して下さい。親に苦労や心配をかけたことはなかったか。

●当家ご信仰の法華経とはどんなお経か。|| 妙法蓮華経は例えば蓮の華のような教え。それは汚い泥から美しい華を咲かせる蓮のように、争いや醜い行いの多いこの娑婆世界で、佛の心を持って世間の周りの人たちを佛にして下さい、という願いのお経です。そうしてこの蓮の華は華果俱時と言って、華が咲くと同時に実もなる蓮のようなお経です。これはお題目を唱えると同時に佛の心が出来ている、という事を顕わしています。

●心の使い方を知った人間。|| 動物にも植物にも心はあるが、心を知って心を使えるのは人間だけである。

◎法華経（一例）

○方便品第二……四佛知見（佛性の開顯||みんな佛の心を持っている||十界互具）

○方便品第二……難解難入其智慧門（舍利弗よ、智慧のみでは私の教えは分かるまい||信こそ第一↓壽量品）

○譬喩品第三……今此三界 皆是我有、能為救護（釈迦佛は主・師・親三徳具備の佛||人間に生まれて人間の言葉で教えを説いた唯一人の佛。阿弥陀佛・薬師佛・大日如来との相違）

○信解品第四……長者と窮子・三草二木・化城喩・衣裏繫珠等（迹門では歴劫修業だが、本門では即身成仏を頭に）

○法師品第十……衆生をあわれむが故に、此の人間に生じたり（娑婆世界で菩薩行をしたいがために）

○宝塔品第十一……大音声・高声（他の経にはない。佛のお示し、決して嘘ではないことを示す）

○涌出品第十五……止善男子（本化の菩薩の出現にあらずんば唱え難き題目なり）・如蓮華在水（蓮は泥に咲いて染まらない。華と果が同時に咲く）

○壽量品第十六……是好良薬 今留在此（末法の衆生のために残して下さったお題目）我実成佛已来（久遠実成の

佛)

○常不輕品第二十～その他(菩薩行の實踐、流通分は応用編)

◎御妙判(日蓮聖人御遺文の一例)

「忘持經事」(富木殿御書) 教主釈尊の御宝前に母の骨を安置し…(報恩)

「呵責謗法滅罪鈔」(四条金吾殿御返事) 五童と烏遺の物語(報恩)

「刑部左衛門之尉女房御返事」 母の乳を呑む事一百八十石三升五合也…(報恩)

「兄弟抄」 女人となることは物に従つて物を従える身なり(主徳、師徳)

「法蓮抄」 烏龍とその子・遺龍(報恩)

「南条殿御返事」 大橋太郎と一妙麻呂(法華經の功德)

「観心本尊抄」 石中の火、木中の花(絶対の法門の譬え)

「孟蘭盆御書」 目連と亡き母の供養(法華經の功德、主師親の徳)

「身延山御書」 貧女の一燈(菩薩行の實踐)

【例証】(一例)

●浄土と穢土Ⅱ浄土門と法華門の違い(相対と絶対)

●娑婆には善と悪が相対して存在している(絶対の法門)

- 厭な人ほど拝みなさい。釈迦（善）と提婆（悪）、キリスト（善）とユダ（悪）（善悪不二）
- 悪が善を作る（極楽浄土には善悪はない。したがって蓮の華もないことになる。）
- 信仰熱心な人ほど過去に失敗の多い人（凡佛同居、善悪不二）
- 例話Ⅱ芥川龍之介「みかん」（逆境に負けない信念、難あり有難し、）
- 例話Ⅱ島崎藤村の苦悩（煩惱即菩提）
- 例話Ⅱ吉野大夫の「鷹が峯・常照寺へ赤門の寄進」

### 【祖 傳】

- 悲母毛髪の子（母のご恩）
- 思親閣の子（亡き両親への報恩は死後も大事）
- 悲母蘇生の子（法華経の徳）
- 清澄山に父と共に道善房を訪れ出家を望む（父母への孝養）
- 阿佛房の身延登詣と千日尼への手紙（妻の恩、夫婦の愛と佛恩）
- 菩提梯（報恩と菩薩行）

### 【結 勸】（信仰を勧める）

- 他宗の人が多し、無信仰の人も多い。

●みんなやがて死を迎えるのが人生。

△今日までは人の事と思いが、俺が死ぬとはこいつはたまらん（蜀山人Ⅱ江戸時代の狂歌師）

●一人の死（親・兄弟・子供・知人等）が無駄になつてはならぬ。残った遺族が、仏教即ち「釈尊が何を教えられたのか」を知らねばならぬ。子や孫・娘等、みんながお題目を唱えれば広がってゆく。

●少なくとも、親の命日は何時も唱えて覚えよ。

●嫁いだ娘も他人ではないのだ。婚家から亡き親に毎日拝め。そして頼め。健康や幸せ、子供の無難等。

●主人の宗派が違っていても、南無妙法蓮華経で拝め。最高の教えの程度を低くするな。

●他宗の人に強制ではなく、法華経の教えを説け。

●比較するのは良いが、けっして悪口にはならぬように。

●「さすが日蓮宗のお坊さんのお説教は良く分かる。有り難い。為になった」と言つて下さる方があれば大成功。これからも自信を持てるでしょう。

※しんみりとわかりやすく、最後は厳かに。

※これからは、通夜の法要が始まる前にしたい。（焼香が済めば帰つてしまう参拝者のためにも、未信徒教化のためにも）

※通夜説教をしない寺院は取り残される。布教（宣伝）せねば葬式の儀式だけに終わつて、折角の未来へのつながりを、切つてしまうからだ。

## ■模範説教

【挨拶】

お題目一唱御願います。南無妙法蓮華經。

皆さん、今日は備前家のお母さんのお通夜にご参詣いただきまして、誠に御苦勞様で御座います。只今お経をあげてご回向申し上げました私は、御當家菩提寺の大阪市の日蓮宗・宗林寺住職であります有本智心と申します。

今日はこうして大勢お参り下さいましたけれども、この中には沢山の他宗の方もおられる事と思えます。御宗旨は別といたしまして、何故、仏教というものがあるのか？そうして、こういうふうには拝むのか？ということ、皆さん余りご存じではないかもしれません。この中で、お通夜の説教を聞いたことのある人が御座いますでしょうか。手を挙げて下さい。（二人だけでした）わかりました。

お通夜には昔からこのようにお説教をするのが当たり前でありました。お坊さんがお説教をしないとすることは「法を説かない」ということです。講演・広告・演説・宣伝・講義等、みんなお経から出た言葉です。お釈迦様が仰ったお言葉であります。法を説かないということは仏教が廃れてしまうという事になります。

そういうことで、約十分ほど大事な仏様の教えを聞いていただきます。

【端緒】

今、ここにございますお茶碗に、こうして「盛り飯」といつて沢山のご飯を山盛りに盛って、お箸を二本立てております。どういう意味かと申しますと、「今日はお箸が立つぐらいに堅いご飯をたくさん召し上がって、靈山浄土へ旅立って下さい」と、こういう意味であります。

お箸が立つといつたご飯は、昔はなかなか食べられなかった。「おしん」の物語に御座います。ビデオで見ましたが、お粥も滅多に食べられない方が多かったです。おしんは、山形の酒田の庄屋さんに奉公いたしました。真面目に働くものだから、おかみさんが「おしん、よく働いてくれたね。聞けば、お婆さんが病気でお前の帰りを待っているらしい。一度帰ってお婆さんを見舞ってあげなさい」ということで、ご褒美に貰った白米を持って帰って「お婆さん、帰ったよ」。お婆さんは毎日ものを言わないぐらいの、本当に弱った状態でありました。早速お粥を炊いて、そうして「お婆ちゃん。白いお粥よ」と声を掛けると、目をさまして「ああ。美味しい」と一口二口食べた。そして「私の人生は幸せだった。本当に幸せだったよ」と言って亡くなって行く姿。

このご飯というのは、本当になかなか食べられなかった、ご飯の最後のご供養。親孝行の証しで御座います。

### 【綱領】

今晚お通夜の、亡くなられたこのお母さんというのは、実は初めは他宗のご信仰でありました。それでこちらの息子さん、即ち喪主と私とは友達でありましたが、同窓会でよくお会いして「有本君、私の家へお参りしてくれないか」ということになり、次男でしたので、以前亡くされたお父さんと兄さんの追善菩提のためお参りするようになってたのがご縁でありました。「南無阿弥陀仏」の仏壇ではありましたが、毎月参りには「南無妙法蓮華経」とお唱えして法華経で二十九年御回向しておりました。



何故この法華経が大事なのか、ということをご承知の阿弥陀経・般若心経・理趣経・華嚴経等があります。これらのお経は、聞く人の立場になつて説かれました。初めは「善と悪がある」とか、あるいは「女だから家庭で炊事をしておれば良い、男は表で仕事をするのだ」と、実はこのように分けていたのです。そうして、その差を知らしめられたのです。これを相対、相対立した法門と申します。

妙法蓮華経というお経は、実はそうではなくて、差別というものを無くして「実はみんな同じ事なのだ」「右手と左手は別々のようだけれども、両方あつてこそ手なのだ」と説かれます。絶対の法門、即ち「対立を絶つ事が真実の教えだよ」と、今まで仰つた事を覆されたのが妙法蓮華経であります。

何故こんなことを仰つたのか。仏様は「初めからこんな事を言つても、とても信じられないだろう」ということをご存知でした。従つて、男と女というけれども、一緒にならなければ子供は出来ません。家庭生活の喜びもありません。善と悪というけれども、悪が善を作るのであります。我々は立派な顔をして、きれいな洋服を着て毎日を生活しているようだけれども、みんな教養がある人に思えるけれども、怒つたり悪口を言つたりと、実はその中に悪も秘めているのであります。

法華経の前半には色々な差が説かれています。男と女の違い、または善と悪についてであります。「提婆達多のお話」がありますけれども、提婆達多はお釈迦様の従兄弟であります。同じ一族の中で片一方は聖者で、もう一方の提婆は大悪人。こういう風に差が出て参ります。またキリスト教にはユダという裏切り者が出てきます。その裏切りのためキリストは十字架に架けられ、実はキリストが宗教になつていきます。ということから、悪は善を作るのであります。

我々の心の中にある悪を反省して、「如何に良い悪いと言う事が判断出来るか」が大事であります。この教えを説

くため、お釈迦様は実に回り道をされました。その結果が妙法蓮華経であります。妙法蓮華経は、例えば「蓮の華の如き教え」といわれます。

### 【例証】

「蓮」は汚い泥にきれいな華を咲かせます。きれいな水では咲きません。汚い泥に咲く蓮の華は、華が咲くと同時に果（み）ができる。他の花は、花が咲いてから実が出来るか、実が出来てから花が咲く。別々です。この蓮の開花を、「華果同時」と申します。「南無妙法蓮華経と手を合わせて唱える度に、既に佛の心が身体の中に入っている」とお釈迦様が仰ったのであります。

私達が生きているのは、この娑婆世界。決して西の方の極楽世界で佛になるのではなく、この娑婆で成仏するといふ事であります。悩みとか苦しみの中から、それは泥の中からきれいな華が咲くように、美しい佛の心を生まれながらにして持っている事を自覚させて下さった。それが妙法蓮華経であります。

日蓮聖人が「木中の花。石中の火、木中の火、水の中の火」と仰っていますが、こういう事は信じ難いと思えます。皆さん木の中の次の蕾（つぼみ）を持っていることはわかると思いますが、「木の中の火」を聞いたことがありますか。木と火とは全然異質なものでありますけれども、実は同じものなのです。その証拠に木と木を擦ってご覧なさい。火が出るでしょう。

我々は自分で良いことをしているようだけれども、言い過ぎたり、子供にお金を与えすぎたりして、かえって悪くしているかも知れません。人に軽蔑されたり、馬鹿にされたり、騙されたりして、かえって自分を奮い立たせて成功した人もあります。昔、親に迷惑や心配をかけて、悔やんで頑張った人。善から悪、悪から善と、娑婆世界はなんと

蓮の華に似ているのでしよう。

これが、善悪不二・煩惱即菩提と法華経で説かれた教えであります。極楽と地獄は決して別々の所ではありません、と仏様が説かれた絶対の法門であります。この世は地獄で、あの世は極楽という相対の教えを法華経で改めて否定されたのであります。欣求浄土・厭離穢土と言って、二つの浄土があるわけではありません。従ってこの娑婆世界こそ、父母が生んでくれた生老病死のある釈迦牟尼佛の世界です。そしてこの世界で一番良く効く薬が、南無妙法蓮華経であります。

### 【因縁】

昨日亡くなったお母さん、百二歳の寿命を全うされました。また喪主のご主人と奥様、本当に長い間のご看病ご苦勞様でした。三年間、よく病院へ看護・見舞いに行かれました。お母さんは何時も「あんたの所へ帰りたい」と仰っていたと、娘さん達に聞きました。

お母さんはよく働いた方でした。お父さん・お母さんは、子供達のためにと朝早く起きて、ご飯を炊いて洗濯をして、一日中働いて五人の子供達を育てて来られたのであります。晩年、月参りには何時も私の後で、奥さんと一緒に「南無妙法蓮華経」とお唱え下さいました。元々他宗でありましたが、戒名に日蓮聖人の日をお付けして「修覚院妙乗日延大姉」と付けさせて頂きました。(因みにこの亡き母の夫、即ち慈父は「釈義乗」の法名で回向されていました。特に現夫人のあきさんは真宗から嫁いで来られたが、昭和四十九年七月、私が月参りするようになって、共に法華経を誦読して下さいました。この姑の逝去を機会に、従来の真宗寺院を断り、仏壇も新たに法華の仏壇を新調。舅の戒名も「等覚院義乗日一居士」と追号し、まさしく参詣を始めた昭和四十九年から二十五年目の改宗となり

ました。遺族は現在、喪主夫婦と嫁いだ娘二人、いずれもお題目信仰を約束してくれています。

これからは、喪主のお父さんやお母さんと共に法華経のご信仰をいたしましょう。息子さんは勿論、嫁いだ娘さん達も、「嫁いだ先の宗旨が違うから」とか「本家に仏壇があるから」「お父さんやお母さんが拝んでいるから」ではないんですよ（幸いにも喪主の下の妹の嫁ぎ先は日蓮宗）。自分たちのおばあさん、あるいは自分のお父さん・お母さんなので、どうぞ嫁いだ先から、陰でもよいから「南無妙法蓮華経」と追善菩提のご回向をして下さい。お母さん・お婆さんが亡くなったんです。お葬式が済んで「やれやれ」「はい、さようなら」では、もうこれで終わりです。折角のお母さん・お婆さんのご信仰が、次の代の子供や孫に伝わらないからです。どうぞ、どんどん伝えて下さい。

日蓮聖人のお手紙の中に、「我が頭は父母の頭、我が足は父母の足、我が十指は父母の十指、我が口は父母の口也」というお手紙があります。私達の頭、あるいは手足・口は、お父さんとお母さんから授かったものであります。自分が悪いことをしたら、お父さん・お母さんは喜ばない、自分が病気をすれば、両親も辛いことでしょう。「お父さん、お母さん、有り難うございました」と、このように菩提を弔い、心から悲しみを表すことが、娑婆世界の最後の親孝行。生きている間は勿論、亡くなった後も親孝行をして下さいということをお示しで御座います。

## 【祖傳】

最後に日蓮聖人の親孝行のお話をして終わります。

御歳五十二歳の頃、佐渡の御流罪から許されて鎌倉へ帰られ、北条幕府に三度目の諫言をされ、それから身延山にお入りになりました。大聖人が身延山の御草庵にお入りになって、毎日欠かさずに行われた日課がございました。そ

れは、裏山五十丁を登りまして遙か東の方を見ながら「ああ、この方角はわが故郷の安房の小湊。父上・母上はすでにこの世に在さず、お墓が寂しく立っていることであろう」。西から東へたなびく雲がありますと「この雲に乗って行くと、懐かしい父上・母上のお墓の前で御回向出来るであろうにのう」。ある時、東から西へ風が吹く風がありますと「ああ、この風は父母のお墓をなでてきてくれた風であろうに」。父・妙日尊儀、頓證菩提、母・妙日尊儀、即身成仏。国を出て故郷へ帰る時には『錦を着て帰れ』という掟なれど、この日蓮未だに麻の衣に麻の袈裟。何卒この不孝をお許し下さい。また、釈尊の金言、妙法蓮華経を広めるため、今生では父上・母上に孝養を尽くすことが出来ませんでした。けれども未来において、必ずや孝養を尽くすことが出来る日まで、どうぞ不孝をお許し下さい」と御回向なさったのであります。

ある秋のことでございます。秋のつるべ落として申しますから、日の暮れるのも早う御座います。朝から来客があり、御講義があつたりしまして、とうとう夕方になってしまいました。何時もおそばに仕えています弟子の日朗、お師匠様のお体を案じまして「今日一日位は、ご回向をおやすみになつては如何で御座いますでしょうか」と申しました。すると日蓮聖人、きつとしたお顔で「日朗、そのような事を申すでないぞ。わが父上は、今日は寒い、暑い、頭が痛い、風邪をひいたと言つて漁を休んだり、特に母上は、暑さ、寒さ、身体が辛い等で、ご飯を炊いたり、三カ年の間、乳房を含ませるのを休まれましたでしょうか。我が事を後回しにして赤子に乳を飲ませ、おむつを替え、そうして懇ろに養つて下さったご恩というものを、何時までも忘れてはなりません。さあ、今から一緒に登りましょう」と、このように仰つて裏山五十丁登り、安房の小湊のお墓の方に向かって御回向なさいました。只今ではこの場所を、親を思い出す所「思親閣」と名付けております。

## 【結 勸】

皆さん、どうぞ何時までもお父さん・お母さんのご恩を忘れないで、日々ご回向下さい。厭なお父さんやお母さんだったと思う方もいらつしやるかも知れませんが、間違いなくご恩があることを思い出して下さい。戒名や御命日も覚えて下さい。決して忘れないように御願ひ申し上げます。今晚お参り下さった中には、他宗の方もいらつしやいますが、同じ事です。宗派が違っていても、お父さん・お母さんのご恩を、どうぞこの機会に思い出して下さればと思います。

誠に御苦勞さまでした。お題目三唱で終わります。

▼『註』

当日お話しした内容の、少し前後した所を入れ替えました。お通夜のお説教は当日が即本番ですので、少々所は順序が逆になったりしますが、やむ得ない事もあります。又、突然のヒラメキもあるでしょうから、どんどんお話下さい。法華経と日蓮聖人のお話だけは、決して忘れないように。